

研究主題

学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒を育成するカリキュラム・マネジメント ～SDGsを意識した学びに向かう力・人間性等の伸長を中心として～

「学びの意義」とは

ア. 本質的意義（人間が人間として発達し、人間の本質を実現する）

イ. 社会的・客観的意義（獲得した知識や教養をよりよい／持続可能な社会づくりに生かす）

ウ. 主観的意義（自己の意欲やキャリアの実現など豊かな生き方とする）

「自ら学び続ける生徒」とは

「感性や思いやり」と「主体的に学習に取り組む態度」の両面で高まっている生徒。

「感性や思いやり」については、自己効力、耐性、決断力、共感・傾聴力、柔軟性などの「コンピテンシー（非認知スキル）」により見取ることとした。

「SDGsを意識した学び」とは

「SDGs達成を目指すESD（＝ESD for SDGs）の視点をもった学び」という意味である。

SDGsの達成を目指す上で、様々な事物・現象が実社会や実生活と関わっていること、広範囲の多くの要素が複雑に絡み合っていること、協働的な問題解決が必要であることなど。

研究主題設定の理由

本校では、平成31年度よりSDGsを基にしたテーマ設定を行い、岡山大学、岡山理科大学、岡山ESD推進協議会などとの連携を生かした「総合的な学習の時間」の学習プログラム開発に取り組み、学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒の育成を図っている。そこで、蓄積された教科教育の知見と、SDGsを意識した各教科等や「総合的な学習の時間」の取り組みを生かして、カリキュラム・マネジメントを進め、社会に開かれた教育課程を通して、新学習指導要領において育成を目指す「学びに向かう力・人間性等」の伸長を図りたいと考えた。



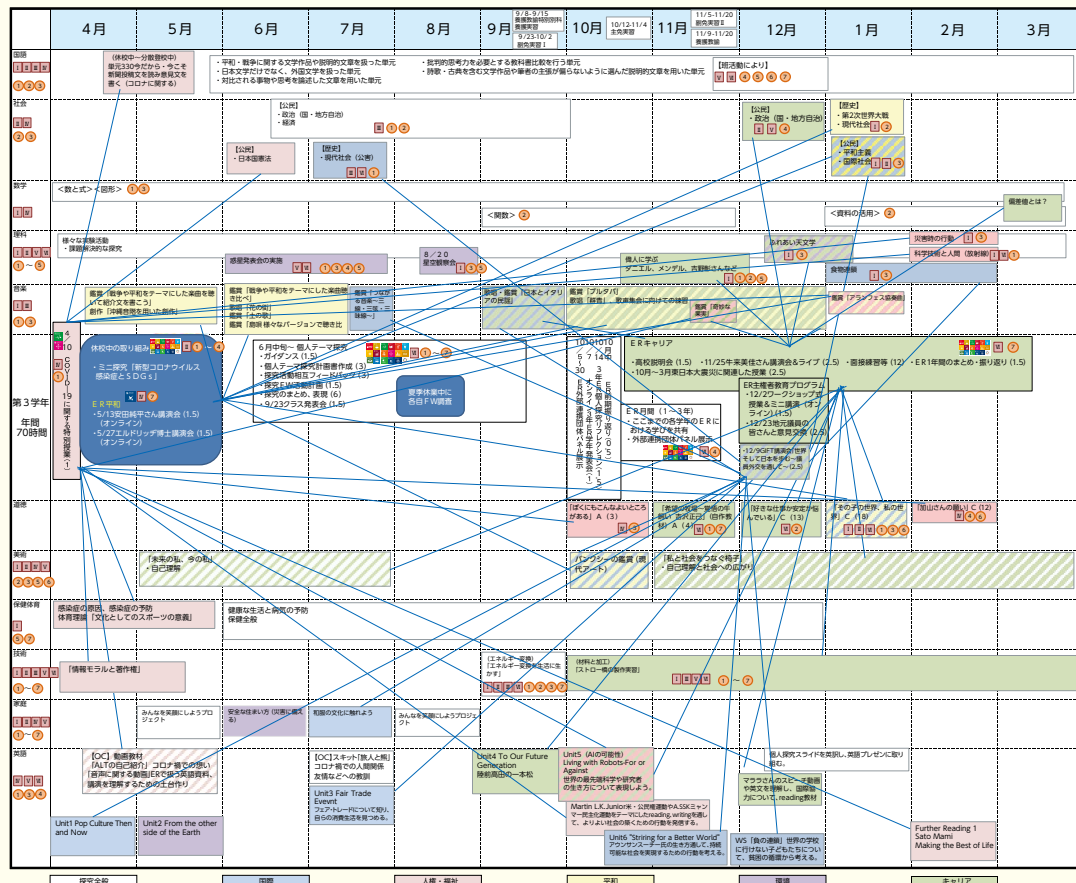


全体共通研究と各教科研究が一体となって、研究主題の達成に向かうことの共有 ⇔ 多元的評価

国語科	他者との協働を通じて自らの考えを広げ深める生徒の育成—批判的思考と創造的思考の往還を促すカリキュラム・デザイン— 批判的思考と創造的思考を自ら行き来させながら、物事の本質を追究できる生徒	<p>「SDGsを意識した学び」</p>	<p>学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒の育成</p>	多元的な評価・分析
社会科	他者と協働する活動を通して、よりよい社会を築こうとする生徒の育成 生活する中で疑問を感じ、批判的に考え解決しようとする生徒			「目指す生徒像」に基づくアセスメント（中・長期）
数学科	事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる生徒の育成 論理的思考力だけでなく、日常生活や社会生活で数学を活用しようとする生徒			Ai GROW (IGS社) 気質診断・自己・他者評価による13コンピテンシー計測
理科	自然の事物・現象の中に問題を見だし、理科の見方・考え方を活用して課題を解決することができる生徒の育成 自然の事物・現象にすんで関わり、主体的に探究できる生徒			各教科における検証・評価
音楽科	創造性を基盤とする音楽の学びを追求する生徒の育成 明るく豊かで充実した生活を送るために、よりよいものを追求できる生徒			学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）
美術科	創造活動を通して、環境や社会から価値を見つけ獲得できる生徒の育成 夢や願いとしての課題発見と解決のできる生徒			[ESDの視点に立った学習指導で重視したい能力・態度]に基づく自己評価
保健体育科	社会情緒的コンピテンスの向上に着目したカリキュラム・マネジメント 運動を通して、他者への関心を高め、互いに認め合い尊重し合える生徒			
技術科	技術の見方・考え方を働かせ、主体的に身の回りの問題を発見し、課題解決に取り組もうとする生徒の育成 持続可能な社会の実現に向けて、主体的に課題解決に取り組もうとする生徒			
家庭科	SDGsを意識し、持続可能な社会の構築の視点で意思決定できる生徒の育成 —「多様なライフスタイル」を鍵概念とした中学校技術・家庭（家庭分野）のA家族・家庭領域におけるカリキュラム作成の工夫を通して— よりよい生活の実現を目指し、常に新しい課題を発見、解決していこうとする生徒			
英語科	生涯にわたり自ら学び続ける自律した学習者の育成～生徒自身がPDCAサイクルを意識する単元・授業構成の改善～ 多様性や他者との協働を大切にし、地球的課題の解決に関わろうとする生徒			
総合的な学習の時間（ER）	SDGsを意識した単元学習プログラムと個人テーマ探究活動の充実～マルチステークホルダーとの連携・協働を活かして～ 持続可能な社会づくりへの意欲と関心をもち、自ら考え・行動できる生徒			



「学びのカレンダー」 総合（ER）を軸に各教科・領域などのつながりが見える化・横断型総合型授業へ



岡大附中 第3学年

[6つの構成概念]

- 多様性 相互性 有限性
- 公平性 選択性 責任性

[7つの能力・態度]

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

[SDGs17のゴール]

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

内部評価指標

本校「目指す生徒像」に基づく「学びに向かう力・人間性等」のアセスメント

理念	非認知能力項目		短期的評価項目		中・長期的評価項目
岡山大学教育学部附属中学校が目指す生徒像 自主自律 豊かな心で たくましく	自主自律 一自分を律し、自他への敬意を持つよう <自制と敬意>	自制系	授業に必要な基本的な姿勢や取組みができていますか	敬意系	学びにかかわる様々な「人・ものやこと・自分自身」を尊重できているか
			提示された課題を粘り強く追究できているか		共に学び合う他者に共感しながらお互いの違いも含めて尊重できているか
			困難な課題に対して諦めずに解決できているか		新しい知識や異なった見識を拒むことなく謙虚に学ぼうとしているか
	豊かな心で 一人とつながり、社会へ貢献しよう <協働と貢献>	協働系	自分の意見を相手に配慮しながらわかりやすく伝えられているか	貢献系	学んできたことを活用して身近な課題解決ができていますか
			相手の意見を積極的に聴き入れ違いなどを理解できているか		自分が日常生活や地域社会のために果たしたい役割を自覚できているか
			お互いを生かす合える役割を担い共に課題解決ができていますか		学んできたことを踏まえてよりよい社会のあり方を見通すことができているか
	たくましく 一意欲を持って、挑み続けていこう <意欲と挑戦>	意欲系	自分の考えを整理し意見として積極的に表現できているか	挑戦系	学んできた内容を多面的な視点を用いてさらに探究を深められているか
			自分で新しい課題を発見しさらなる探究ができていますか		学んできた内容を実生活や社会の中で活用できているか
			学習した内容と自分や社会とのつながりを見出せていますか		学んできた内容をさらに新しい内容や取り組みへと更新できているか



外部評価指標

Ai GROW (IGS 社) による 気質診断・自己&他者評価でコンピテンシーを可視化 ➔ 個々の振り返りと成長へ



本校の目指す生徒像とAi GROWで可視化するコンピテンシーの詳細の関連付け

	「個人的実行力」 自らの意思によって行動を起こして計画を進め、何事にも自ら進んで取り組むことのできる能力	「耐性」 困難な状況であっても、自分で決めたことは最後までしっかりとやり抜くことができる能力	「共感・傾聴力」 相手の話を真剣に聴き、相手を深いレベルで理解し、相手の気持ちを尊重することのできる能力	（振り返りの視点） ◆スコアの高いコンピテンシーについて、なぜ/どのような行動をしていることでそうなったと思うか？ ◆今後、もっとも伸ばしたいコンピテンシーは？ ◆「自分が伸ばしたい項目」が高い人はどんな行動をとっていると思うか？ ◆コンピテンシーを高めるためにどうする？ ①学校の各教科・総合の授業で ②学校（学年）行事、委員会、部活動で ③学校でのコミュニケーション（友人関係）で ④学校外の場所（家庭や地域）で
自主自律				
豊かな心で	「表現力」 自分の考えや思いはもちろん、どんなことでも相手が理解しやすいように伝えることのできる能力	「影響力の行使」 他者に対して自分の考えや目的を伝えながら、ともに協働して物事を進めることのできる能力	「地球市民」 自分が住む地域や日本のことはもちろん、世界の一員として何ができるか考えられる能力	
たくましく	「自己効力」 何らかの課題に対しても「自分ならできる」と自信を持って物事を進めることのできる能力	「決断力」 自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら判断し、物事を決めることのできる能力	「柔軟性」 変化への対応力とともに、その場その場で機転を利かせて行動を適宜修正することのできる能力	

総合的な学習の時間 (ER)

(例)
ER(キャリア)
プログラム

「学びのカレンダー」

→単元学習プログラム

→「カリキュラム・マップ」

→単元計画の整理と共有

★3年間を見据えて

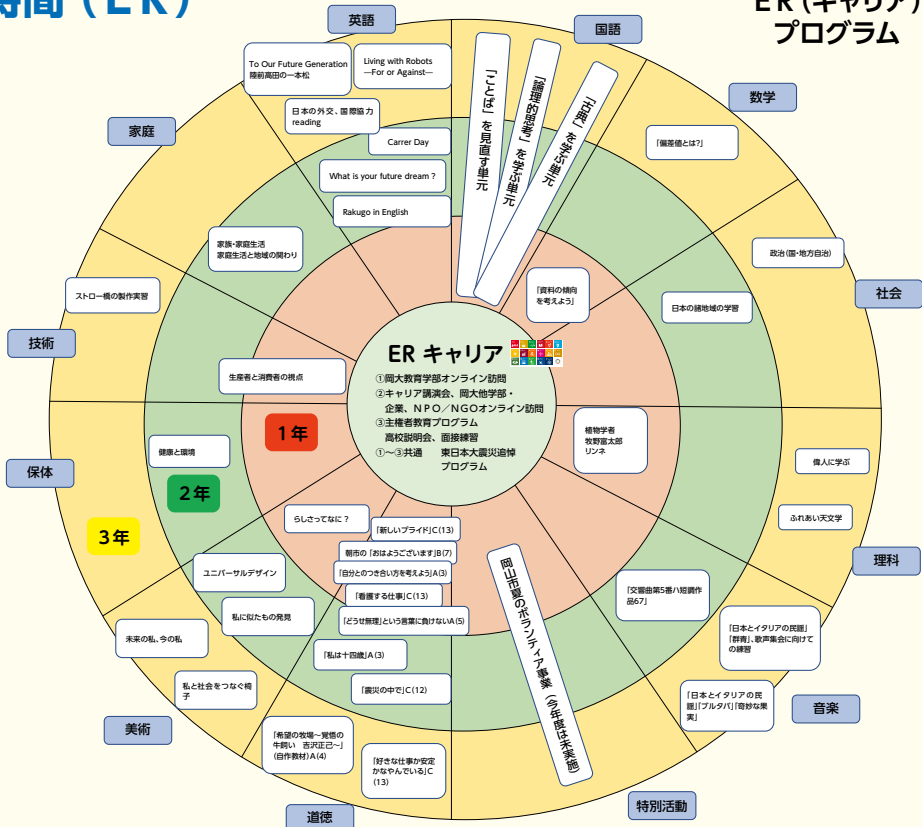
★SDGsを意識して

★マルチステークホルダーと連携・協働して

★「ESD/7つの育みたい能力態度」

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的、総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つなぐを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

★教科・領域横断型プログラムへ



単元名 ERキャリア
「主催者教育プログラム」(第3学年)



1 単元の目標

地元や本校に縁のある政治家(議員)の思いに触れたり、意見を交換したりすることを通して、持続可能な社会を創るには一人一人がその責任と義務を自覚し、自ら進んで行動することが必要であることを理解するとともに、主催者及び市民として社会に参加・参画・貢献・寄与しようとする態度を育てる。

2 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>①持続可能な社会を創るには一人一人がその責任と義務を自覚し、自ら進んで行動することが必要であることを理解している。</p> <p>②収集した情報を分類し、分かりやすい方法で表したり、多面的に理解したりしている。</p>	<p>①個人テーマ探究とのつながりから、SDGs課題解決に向けて何が問題かを見付け出し、課題を明らかにしている。</p> <p>②課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集している。</p> <p>③課題の解決に向けて多様な情報について、根拠をもとに整理したり、深く分析したりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>④主催者及び市民として何ができるのか、自分自身の考えをまとめ、論理的に効果的に表現している。</p>	<p>①持続可能な社会を実現するために、自ら社会に参加・参画・貢献・寄与しようとしている。</p>

3 指導と評価の計画 (5.5時間+朝読書・昼食時間7回)

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
SDGs課題解決に向けて～主催者及び市民として～(1.5)	・ワークショップ授業&ミニ講演「あなたが主役の政治」 講師：原田謙介氏(元NPO法人Youth Create代表)(zoom使用、各教室)	①	①		・ワークシート ・発言
SDGs課題解決に向けて～主催者及び地球市民として～(2.5)	・GIFT講演会「世界そして日本を歩む～議員外交を通して～」 講師：逢沢一郎氏(衆議院議員・本校OB)	②			・ワークシート
朝読書資料配付①	「SNSと政治の関わり」	②	②③		・資料・観察
朝読書資料配付②	「私たちと選挙」				
昼食放送①	「今の政治課題」	②			・資料・観察
朝読書資料配付③	「私たちの県議会」				
昼食放送②	「私たちの県議会」	②			・資料・観察
昼食放送③	「アンケート結果」	②			・資料・観察
朝読書資料配付④	「ゲスト議員プロフィール」	②			・資料・観察
持続可能な社会の創り手として～私たちにできること～(1.5)	・ゲスト議員の皆さんとの意見交換会(各教室、クラス間共有はzoomを使用し、オンライン会議)※参照1		④	①	・ワークシート ・発言

※参照1 お世話になったゲスト議員の方々

県議会議員(5名) 波多洋治様、高橋 徹様、大塚 愛様、中川雅子様、木口京子様
市議会議員(4名) 中原淑子様、竹永光忠様、松本好厚様、森山幸治様
他に原田謙介様(アドバイザー参加)、岡山県議会事務局の方々、PTA広報部の方々





1年間の主な取り組み

- 令和2年度研究の目的及び研究計画の立案・共通理解など
 - ・教員会議 ・教員研修 ・合同研 ・主題研究部会 ・各教科会 ・分掌部会 (総合ER・ICTなど)
- 全体及び各教科の研究進捗状況の確認と共有
 - ・8/4 第1回研究デザイン検討会 ・1/19 第2回研究デザイン検討会
- 全体及び主題研究部会でのテーマ研修会 ※()内は講師
 - ・4/29 「今年度研究と非認知能力について」(岡山大学全学教育・学生支援機構・中山芳一准教授)
 - ・6/30 「SDGs達成に向けたESDの新展開」(岡山大学大学院教育学研究科・藤井浩樹教授)
 - ・8/28 「Ai GROWを活用した非認知スキルのアセスメント」(IGS社 教育事業部・渡辺純華氏)
 - ・12/8 「働き方改革～業務・時間・環境の視点から～」(寄島町立寄島小学校・安田隆人校長)
- 総合的な学習の時間 (ER) ESDカレンダー及びカリキュラム・マップの検討・作成
- SDGsを意識した総合的な学習の時間のカリキュラム開発 (各学年単元プログラムのPDCA)
- 【第1学年】**
 - ・ERテーマ別講座実施 (6月～8月) ・ER人権：ハンセン病 (10月)
 - ・ERキャリア：岡山大学教育学部オンライン訪問 (12月) 東日本大震災追悼上映会 (3月)
 - ・ER国際：日中青少年オンライン交流 (1～2月)
- 【第2学年】**
 - ・ERこころ：心の病について学ぶ授業 (8～9月)
 - ・ER平和：岡山市内戦跡フィールドワーク (6月)
 - ・ERキャリア：3領域 (岡山大学他学部／地元企業／NPO・NGO) ハイブリッド訪問実施 (12・3月)
- 【第3学年】**
 - ・ER平和オンライン講演会 (5月)・ER探究：個人テーマ探究と夏の探究活動 (6月～10月)
 - ・ERキャリア・主権：講演会・ワークショップ・地元ゲスト議員交流会 (10月～12月)
- 【全学年】**
 - ・ER / SDGs：新型コロナウイルス感染・蔓延予防プログラム (4～5月)
 - ・ER国際 / GIFT講演会 (1年7/22 2年12/23 3年12/9実施)
 - ・ER振り返りと本校版ESDで育みたい能力・態度の自己評価実施 (前期末10月・年度末3月)
 - ・ER東日本大震災追悼プログラム (3月)
- 第3学年個人テーマ探究活動における探究のプロセスとW型問題解決学習の可視化・重点化
- 道徳・人権・ER 領域横断型特別授業試行 (9/24全校実施)：
「岡山市公共施設等総合管理計画を通して、私たちの町への関心や愛着を深め、住み続けられる町づくりのために自分たちに何ができるかSDGs視点で考えよう」
- 「学びに向かう力・人間性等」を測定する評価指標の検討と実施
 - ・「目指す生徒像」に基づく非認知スキルアセスメント (全校実施：第1回10月 第2回2月)
 - ・外部評価指標Ai GROWを活用した生徒の資質・能力の伸長の確認 (全校実施：第1回7月 第2回10月 第3回12月 第4回2月)
 - ・学校評価アンケートの実施 (生徒・保護者・教員対象：12月実施)
- オンライン教育実践発表会による各教科等の研究公開
 - ・第1期 (7/21英語 10/7総合的な学習の時間)
 - ・第2期 (10/29美術 11/30音楽 12/3国語 12/4社会)
 - ・第3期 (1/22英語 1/25保健体育 2/18技術科 2/24数学 2/26理科 2/27家庭科)
- 全体共通研究の発信と成果発表
 - ・岡山大学定例記者発表 (10/29)
「【FOCUS ON】岡大附中の教育研究～持続可能な社会の創り手を育むことを目指して～」
 - ・令和2年度 日本教育大学協会研究集会報告 (10月)
「Withコロナの社会における教育活動の工夫・継続 ―その持続的発展を図って―」
 - ・文部科学省 (国立教育政策研究所) でのオンライン中間発表会における研究成果発表 (2月)
- 地域社会への取組内容に関する情報交換・発信 (岡山市立東山・操山公民館・岡山大学など)
- 岡山市内公立中学校との連携協働プロジェクト (岡山市立旭東中・御南中・高松中・操南中など)
 - ・COP25 / 気候変動についての学習 (5月) ・防災 / 人権の学習 (12月・3月)
- 一年次研究成果の確認と次年度以降の研究計画の再検討

教科・領域等横断型授業の実践事例

事例① 第3学年

東日本大震災追悼 学習プログラム 英語・音楽・道徳・総合（ERキャリア）



- 【英語】 東日本大震災で津波を生き残った「奇跡の一本松」についてリーディング教材として学習する
- 【音楽】 合唱曲「群青」を通して、東日本大震災で原発事故により避難せざるをえなくなった中学生たちの思いについて考え、表現する
- 【道徳】 自作教材「希望の牧場・ふくしま～覚悟の牛飼いの吉沢正巳～」を通して、正義／信念／よりよく生きる喜び／生命尊重などについて学ぶ
- 【ERキャリア】 シンガーソングライター・牛来美佳さん（福島県浪江町ご出身）によるお歌＆お話を会を通して学ぶ

事例② 全学年

「住みやすい町づくりについて考えよう」 道徳・人権・情報・総合（ER基礎）



- 【道徳】 私たちの町への関心や愛着を深める（社会参画／公共の精神／郷土を愛する態度）
- 【人権】 多様な価値観を備えた人権感覚を育てる
- 【情報】 合意形成と広報啓発について考える
- 【ER基礎】 「岡山市公共施設等総合管理計画マンガ版」を切り口に、SDGsの視点で町づくりについて考える
- 【ERキャリア・主権】 政治や政策が私たちの日常生活とどのようにつながっているか考える

成果と課題

- 共通研究主題に基づく研究推進により、「学びの意義を理解し自ら学び続ける生徒」のカリキュラム・マネジメントを図ることができた。
- SDGsを意識した総合的な学習の時間の「学びのカレンダー」と「カリキュラム・マップ」を作成し、単元学習プログラムを組織的・計画的にPDCAで実施する基盤が整った。
- 本校版「目指す生徒像に基づく学びに向かう力・人間性等」の自己評価と、新たに採用した外部評価指標「AiGROW」の計測コンピテンシーを用いることで、生徒の資質・能力の伸長を可視化することができた。
- 研究を推進する学校組織風土の醸成が進んだ。
- 「学びの意義を理解し自ら学び続ける」「SDGsを意識した学びに向かう力・人間性等」の視点をより明確にする。
- 効果的なカリキュラム・マネジメントに関する実践研究を行い、本校が目指す生徒像「自主自律 豊かな心で たくましく」を具現化した「生徒像・リーダー像」について、認知及び非認知の両側面から評価を行う。
- 総合的な学習の時間の「学びのカレンダー」と「カリキュラム・マップ」を活用し、単元学習プログラムが生徒の「SDGsを意識した学びに向かう力・人間性等」をより育成するものとなるようPDCAを継続する。
- 可視化されたコンピテンシー（非認知スキル）について、生徒一人一人が自らの学びを省察し改善できるような手立ての工夫を行う。

★全体研究では

国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部	教育課程調査官	遠山 一郎 先生
中国学園大学・中国短期大学	副学長	住野 好久 先生
岡山理科大学教育推進機構教職支援センター長	教授	岡本 弥彦 先生
岡山大学大学院教育学研究科	教授	川田 力 先生
岡山大学全学教育・学生支援機構	准教授	中山 芳一 先生

★各教科研究では

岡山大学大学院教育学研究科、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会

の諸先生方にご指導ご助言を賜っております。